

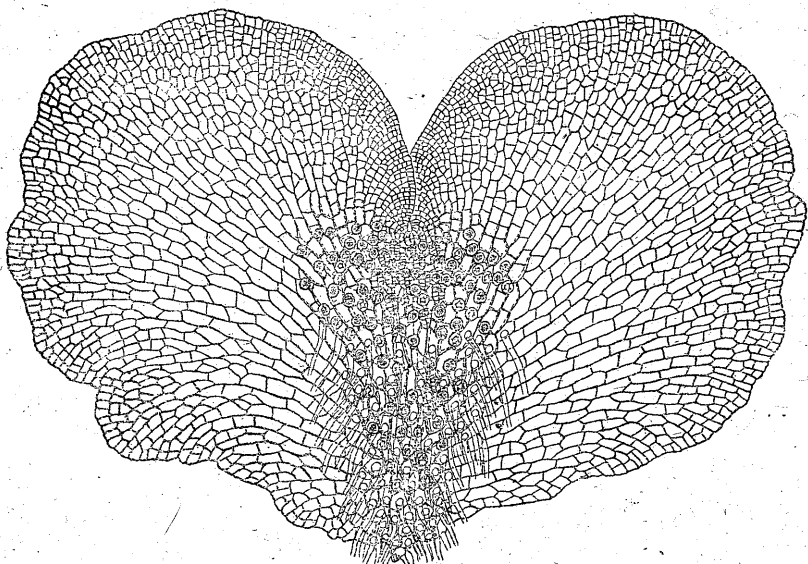
# 百瀬 静男 ウラボシ科羊歯の前葉體の分類學的研究

(第五報) キノモトサウ屬に就て

Shizuo MOMOSE: A Systematic Study on the Prothallium of Polypodiaceous Ferns. V On *Pteris*.

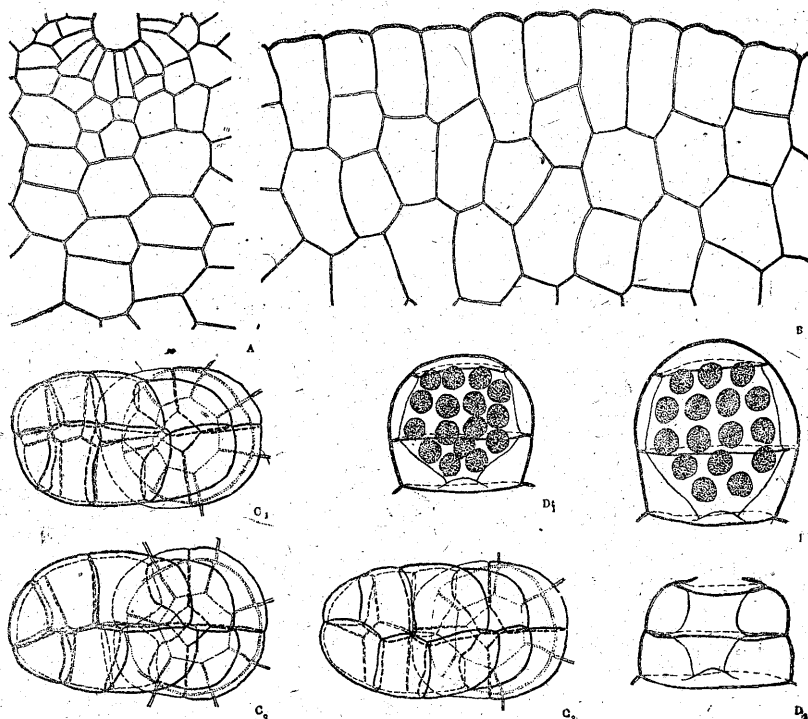
キノモトサウ屬羊歯の内筆者の觀察せる 8 種類の前葉體は次の如く區別される。

- |   |   |   |                             |
|---|---|---|-----------------------------|
| 1 | { | 藏精器は中褥の中部以上にまで亘つて生じ上方に於ては藏卵器群に接し或はこれと混生する。前葉體を構成する細胞は比較的小形である ……………                         | 2                           |
|   |   | 藏精器は中褥の下部以下に生じ藏卵器と混生することなく下方に隔つて居る ……5  |                             |
| 2 | { | 藏精器は藏卵器と混生して中褥の全面に亘りその上部生長點附近にまで生ずる。兩翼は著しく蝶翼狀に斜上し、前葉體の下部は鞘狀をなす。中褥は比較的下方より始まる……………           | モエジマシダ <i>P. longifolia</i> |
|   |   | 藏精器は中褥の中部或はそれ以上にまで亘つて生じ上方は藏卵器群に接し又は僅かにこれと混生する。兩翼は微かに蝶翼狀に斜上するが或は殆んど平直に擴る。中褥は比較的上方より始まる …………… | 3                           |
|   |   | 藏卵器を生ぜずして常に無配的に造胞體を形成する ……………   |                             |
| 3 | { | ……………オホバキノモトサウ……………   | <i>P. cretica</i>           |
|   |   | 藏卵器を生ずる ……………   | 4                           |



第 36 圖 モエジマシダの前葉體 Prothallium of *Pteris longifolia* (×20)

- 4 { 翼縁の細胞の縁側は灣入して凹形をなす。中樑は廣倒卵形にして横廣くなり時には腎臓形をなし、比較的大形である……………キノモトサウ *P. multifida*  
 翼縁の細胞の縁側は通常灣出して凸形をなす。中樑は倒卵形にして比較的小形である……………リウキウキノモトサウ *P. ryukyuensis*
- 5 { 前葉體を構成する細胞は比較的小形である。中樑は比較的大形にして、藏卵器は比較的多數個生ずる……………アマクサシダ *P. dispar*  
 前葉體を構成する細胞は比較的大形である。中樑は比較的小形にして、藏卵器は比較の少數個生ずるか又はこれを生ぜず……………6
- 6 { 翼縁の細胞の縁側は灣入して凹形をなす。藏卵器を生ずる……………  
 ……………ナチシダ *P. Wallichiana*  
 翼縁の細胞の縁側は灣出して凸形をなす。藏卵器を生ぜずして無配的に造胞體を生ずる……………7



第 37 圖 モエジマシダ *P. longifolia*.

a. growing point ( $\times 145$ ), b. a part of margin ( $\times 145$ ), c. archegonia ( $\times 220$ ), d. antheridia ( $\times 220$ )

- 7 { 前葉體は通常左右對稱である ..... シアママクサシダ *P. Fauriei*  
 { 前葉體は通常左右非對稱である ..... ハチジャウシダ *P. quadriaurita*  
 21. モエジマシダ *Pteris longifolia* Linnaeus, Sp. Pl. 2: 1074 (1753).

本種は九州・琉球・臺灣・南支・印度支那・フィリッピン・ミクロネシアに互つて分布する。  
 本研究の材料はミクロネシア、パラオ島産のものを使用した。

前葉體は心臟形にして翼は斜上方に張り、頂部中央は丸く深く彎入し、兩翼片の内側邊は生長點の上方に於て相接近し、兩翼は相重る。下部は丸く狹窄して原糸體に移行する。原糸體は 1-3 個の細胞より成り、基原細胞は圓柱狀に胞子外殻より突出し、初生假根はその下側方に着生する。前葉體の下部は鞘狀をなし兩翼は著しく蝶翼狀に斜上し、翼縁は波狀をなす。翼細胞は方形にして長形になる傾向強く、分裂列は明瞭である。翼縁の細胞は長形にして側方に突出し、その縁側は微かに彎入して凹形をなす。假根は淡褐色をなし中軸帶に沿ふて中褥の中部にまで互つて生ずる。中褥は下面中途より始まり頂部生長點に達する倒卵形の褥をなし、5-6 層の丸味ある稍長形の細胞より成る。藏卵器は中褥の中央上部生長點に近く群生し、4 系列をなす頸細胞は前列 5 個、後列 4 個の細胞より成り、その最下位のものは特に大形にして頸部の座をなす。藏精器は前葉體の下部より中軸帶に沿ふて中褥の上部生長點の近くまで互つて中褥の全面に生じ、上方は藏卵器と混生し、側面觀は球形乃至橢圓形にして直徑 80-95  $\mu$  あり、底細胞は環細胞と等幅、等高にして、その上膜は常に摺鉢狀に陥没して底膜にまで達する。

C. Christensen によれば本種はキノモトサウ屬 *Pteris* L. の基準種である。依つて本種の前葉體をもつてキノモトサウ屬の前葉體の基準形を規定する。

## ○植物採集覺書 (其五) (奥山春季) 神奈川縣 (つゞき)

### ○大 山

原産植物 [ウラハグサ] *Phragmites macer* Munro. Journ. Bot. 6: 330 (明 10)  
 [エビラシダ] *Polypodium oyamense* Baker, Journ. Bot. 6: 336 (明 10) オホヤマブシ *Aconitum oyamense* Nakai 植雜 49: 502 (昭 10).

植物 (羊) ホソバコケシノブ、ヌリトラノヲ、イハオモダカ、ミヤマイタチシダ、クリハラン、サジラン、(單) ホガヘリガヤ、イハガリヤス、タチネズミガヤ、ナベワリ、シヤウジヤウバカマ、ツクバネサウ、ウチハドコロ、キクバドコロ、アツモリサウ、ムカゴサウ、イイヌマムカゴ、(離) ランエフアフヒ、ハルトラノヲ、ヤマトグサ、サハハコベ、ツルハコベ、オホヤマハコベ、ナガバヤマグルマ、キクザキイチリンサウ、シロバナハンショウヅル、スハマサウ、トウゴクサバノヲ、カゴノキ、ツルキンバイ、マメザクラ、オホバナマメザクラ、エビガライチゴ、カナウツギ、オホクマヤナギ、エドスマレ、(合) ゴエフツツジ、ホツツジ、オホバアサガラ、タチガシハ、ムラサキ、シソバタツナミ、イヌヤマハクカ、ヤマヂワウ、フジテンニンサウ、アフギカヅラ、タチコ